

実践報告

栄養専門学校「基礎学力演習」の取り組み

Our liberal arts exercises at Nutrition Technical School

久保 淳 Atsushi Kubo 高野沙織 Saori Takano 赤星文月 Mizuki Akahoshi
竹田恵子 Keiko Takeda 小金澤真代 Mayo Koganezawa 佐藤 功 Isao Sato
酒井亜希子 Akiko Sakai 関子奈央 Nao zushi 須藤剛士 Tsuyoshi Sudo
宮澤良光 Yoshimitsu Miyazawa 秋山知佳 Chika Akiyama

Abstract

Now a days, many technical schools have students who are lacking on basic academic ability in liberal arts subjects. As a result, those schools have to place special focus on specific classes. Our school has focused on such students as well. Since 2014, we have started a special program of elective courses for basic liberal arts. From this fiscal year, we change the syllabus drastically, and place a great emphasis on a practical approach.

Our aim is to educate students who can hit the ground running with skills that allow them to deal with problems such as nutrient estimation, cooking for large groups, and calculating of wasted food.

Key word : liberal arts、re-learning、nutritious estimation、rate of wasted food

1 はじめに

近年、4年制大学をはじめ多くの大学・短大・専門学校において、基礎学力に課題のある学生が一定程度存在しており、多くの学校で研究レベル、実務レベルに到達できるよう学内で特別な授業が行われるようになってきている。本校でも基礎学力に課題のある学生に対し、熱心なクラス担任が放課後特別に対応するなど以前から様々なアプローチを行ってきた。平成26年度より、カリキュラムの一環として自由選択科目である「基礎学力演習」を立ち上げ、試験にて課題のあると判明した学生に対して授業を行ってきた。今年度より、学生により直接的な実務能力の向上につながるよう方法を大きく変更した。

栄養士として必須の栄養価計算、大量調理に必要な食材量や廃棄率など即座に対応できる能力を本学生全員に身につけさせ、現場での即戦力の人材を輩出することが我々の目的であり、願いである。

2 今回の取り組み

(1) ねらい

これまでの基礎学力演習は数学（計算実務）、国語、化学の3科目で実施してきたが、栄養士の職務として最低限必要な実務を身につけさせるためには、

より基礎的な計算実務に特化することが効果的である。これまでの方法を見直し、より学生に実効性のある基礎学力演習を提案した。

<基礎的な計算実務>

- ① 加減乗除、小数・分数
- ② 単位の認識（重さ g、量 L、長さ cm、時間分など）
- ③ 百分率、割合、四捨五入、切り上げ、切り捨て
- ④ 平均値、BMI、カロリー計算
- ⑤ これらが複合された文章問題の認識、言葉を数式に置き換える認識、用語の認識

(2) 課題

対象となる学生は、基礎的な計算実務に課題がある。これらの学生に対して百分率の問題ができないからそれを繰り返しやらせたり、文章問題を数多くやらせたりすることは、根本的な解決にはつながらない。数学の学習は積み重ねであり、積み重ねた知識を応用できるようにする学問である。どの段階でつまづいているかを明らかにし、その部分を根気強く学び直し、きちんと理解させ次に進むことが彼らにとっての救済策である。

(3) 指導のあり方について

これまでは、作成された“シラバス”に則り、担当者がそれぞれ工夫して授業を行ってきた。対象学生を「最終テストでの合格」にまで指導していることから一定程度の成果はあるものと思われる。その熱心さや努力は敬意を表する。しかしながら、これまでの指導方法を聞いてみると、それぞれの担当者が独自に教材研究をするなどかなりの労力が必要とされていた。また学生からの声も教える教員の違いにより肯定的・否定的な意見に分かれる。同一の教材、進め方の統一を行い、担当者が誰になっても指導が可能であり、それほど労力を感じることはない、学校として効率の良い指導方法を進めることが大事ではないかと考える。

(4) 「ベーシック」授業方法の導入について

都立高校の中には、“エンカレッジスクール”という名称で「学び直し」を積極的に行っている学校が5校ほどある。(秋留台、足立東、東村山、蒲田、練馬工業) 20年ほど前、私は赴任していた学校でその立ち上げにかかわった。「学び直し」を実践するにあたり、生徒たちの課題は多々ある中、「数学が小学校レベル」「分数、小数が分からない」など数学での躓(つまづ)きが大きな課題であることがわかった。そこで学校独自の教科として「基礎学力講座『ベーシック』」を教職員の創意で立ち上げた。「国語、数学、英語を基礎からやり直しさせよう」という授業を開発した。数学については小学校の算数、加減乗除から始めるというものであった。方法も斬新なもので、一クラス生徒35人程度に教員を3人配置させ、その担当者は教科に関係なく割り当てた。(時間割上空いている教員が行う。) 方法はプリント1枚に10問程度の問題(加減乗除の順番で優しい問題から徐々に難易度が上がっていく)を生徒が解答し担当者が〇つけ(採点し)、全問正解ならば次のプリント(段階別になっている)に進むというものであった。生徒の学力によって進み具合も違ってくるが、その生徒の躓き具合が明らかになるものであった。3人の教員が連携し、進度の早い者と躓いている者に柔軟に対応していく、というものであった。

今回、本校の基礎学力演習にこの方法を取り入れた。教材(毎回のプリント内容)については栄養士必須の基礎学力となるものを想定し、新たに作り上

げた。学生への共通した指導、統一された教材などにする事で、教員の負担感を減じることにもつながると考えた。また一つの授業に学生数を20名程度に絞り、担当者を4名にすることで、きめ細かく学生と接することが可能になり、おおいに学力向上の変容が期待できる、と考えた。

(5) 進め方について(“栄養ベーシック”という名称とする。)

- ① 年度当初の基礎学力試験(振り分けテスト)で各クラス5から6名程度の学生を抽出する。
- ② 前期15回の授業とする。(これまで同様、選択科目の扱い。卒業必修単位とはしない。)
- ③ 2クラス合同、学生数は20名程度、担当は1年担任2名、その他2名、計4名とする。
- ④ 出欠席は担任が管理する。
- ⑤ 教材は栄養士の職務に直結する計算実務に制限する。
- ⑥ 教材の作成は久保とカリキュラム委員とで行う。
- ⑦ 学生はプリントを順番通りに行う。1枚に10~20問程度の問題がある。1その問題を解いたら担当者に持って行く。1担当者は〇つけをし、学生に返す。1満点であれば、次に行くよう指示をする。1間違えた問題はもう一度やらせる。1解き方がわからない学生にはその担当者が解き方を指導する。1学生は「学習記録表」をその都度提出し、担当者の印をもらう。1担当者には模範解答をあらかじめ渡しておく。
- ⑧ 12回目の授業のときに見極めテストを行う。そこで合格した者はこの授業を終了したものとす。 (後3回は出席を免除する。)
- ⑨ 不合格の者は引き続き授業に出席する。15回目に再テストを行う。
- ⑩ 教室を固定する。9階の空き教室とする。書棚にプリントを進度順に置く。

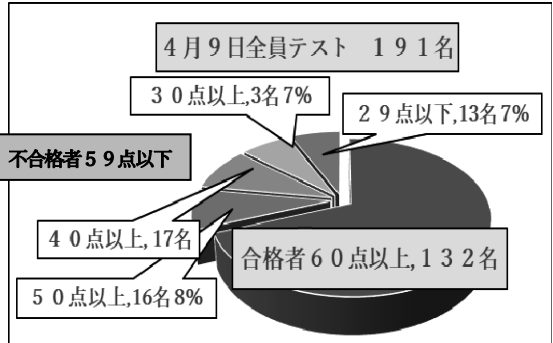
クラス	人数	担当教員(太字は担任)	時間
2・3組	19人	高野、佐藤 、赤星、久保	火4
1・6組	20人	竹田、小金澤 、須藤、久保	水4
4・5組	20人	函子、酒井 、宮澤、秋山、久保	木4

(6) 授業計画 (シラバス)

回	項目	内容
1	加法 (整数のたし算)	1桁から4桁程度、文章問題 電卓使用 5枚程度
2	減法 (整数のひき算)	1桁から4桁程度、文章問題 電卓使用 5枚程度
3	乗法 (整数のかけ算)	1桁から4桁程度、文章問題 電卓使用 5枚程度
4	除法 (整数の割り算)	1桁から4桁程度、文章問題 電卓使用 5枚程度
5	小数の加減乗除	小数の認識問題、文章問題 電卓使用 5枚程度
6	分数の加減乗除	分数の認識問題、文章問題 電卓使用 9枚程度
7	正負の加減乗除	正負の認識問題、文章問題 電卓使用 5枚程度
8	単位の認識	重さ、量、長さ、時間、文章問題 5枚程度
9	百分率割合	数式での問題、文章問題 5枚程度
10	四捨五入平均	数式での問題、文章問題 5枚程度
11	カロリー計算、配分量	実際の調理を想定した問題 5枚程度
12	見極めテスト1	これまでの学習の積み重ねを見極める。
13	苦手対策講座1	苦手か所に戻り、学習する。 相互に教え合う
14	苦手対策講座2	
15	見極めテスト2	これまでの学習の積み重ねを再度見極める。

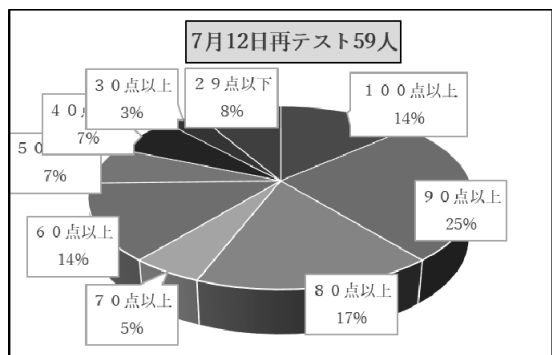
(7) 結果

4月9日に1学年191名全員に基礎学力試験を実施した。下記の円グラフはその結果である。100点満点のテストを行い、60点以上を合格、59点以下の学生を不合格とし、この59名の学生を今回の基礎学力演習の対象者とした。この59名を3クラスに分け1クラス20人程度にした。指導教員は、各クラス4名程度配置した。学生は1枚のプリント(10問程度)を完成させたら、近くにいる教員に持っていき、○付けをしてもらう。教員にはあらかじめ模範解答が準備されており、それを見ながら○付けを



する。このようにして、どの教員が対応してもできるように配慮した。また間違えた箇所はどこなのか、何がわからないのか、アドバイスをを行った。学生たちも90分間の授業があつという間に終わるほど集中し、意欲的に取り組む姿勢を見せた。

一方、「1 整数のたし算」から始まり、「11 栄養に関する問題」まで60枚のプリントを12回の授業で完成させることを目標としたが、進度についてはばらつきが多く出、早いものは9回目の授業で完成する学生もいれば、かけ算・割り算で難を示す学生も出た。様々な状況となったが、12回目の授業で4月に行った基礎学力試験を再度行わせた。もちろん学生には事前に4月と同じ問題を出すことは言わずに行った。その結果が下記の円グラフである。59人の4月の平均点は39.8点だったものが、今回は76.4点、また14名の学生が100点満点を取るなど驚異的な向上を見せた。4月当初出来なかった問題が3カ月の基礎学力演習を繰り返して行うことで、解き方を忘れていたことを再確認できたことや、小学校の時に解き方をあいまいにしていたものをきちんと理解することが点数の向上に結び付いた。特に「割合」の問題は解き方がわからない学生が多くいたが、文末の資料にあるような解き方を繰り返して説明し、

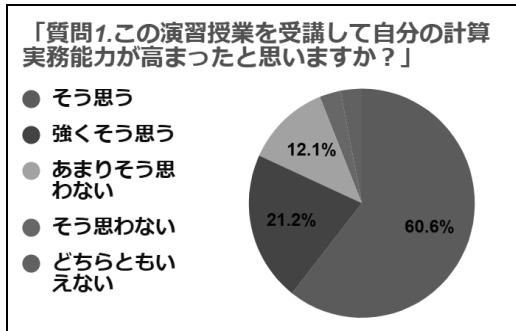


その結果理解できる学生も多く出た。しかしながら、今回のテストでも 60 点以下の者が 14 名ほど出、学生によっては 4 月と同様の点数となる者もいた。9 月からの残りの 3 回の授業については、コロナ対応で余儀なく休講となったが、後期からの 1 か月間、毎週火曜日に放課後、約 1 時間補講を行い、対応した。栄養価計算、塩分濃度、廃棄率の問題を取り上げ、間違えた個所を何度もやり直しをさせ、自力で解決させるよう取り組ませた。

3 学生アンケート結果

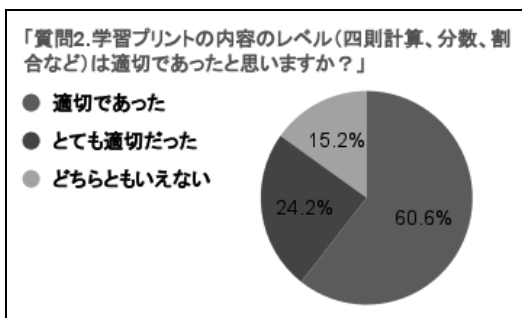
学生による授業評価アンケートの結果 (34 人)

<質問 1>



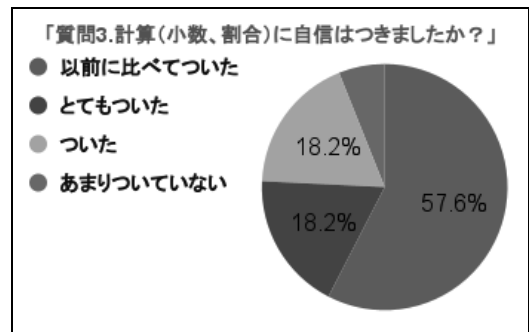
- ・繰り返すことで理解ができた。(5 人)
- ・復習ができ高まった。(4 人)
- ・曖昧だった部分がわかった。(2 人)
- ・計算の速度が上がった。(2 人)

<質問 2>



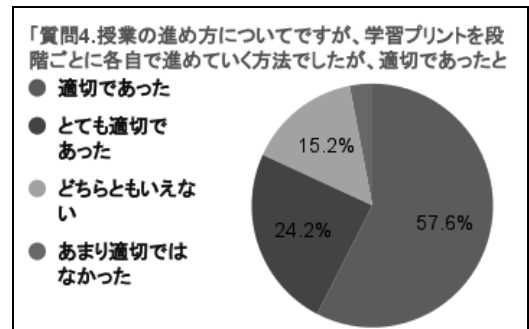
- ・自力のできるくらいのレベルで丁度よい。(4 人)
- ・復習になるレベルであった。(2 人)
- ・わかりやすい (2 人)
- ・最後の問題 (複合問題) が難しかった。(1 人)
- ・効率が良い (1 人)
- ・授業で活用できる。(1 人)

<質問 3>



- ・割合の曖昧な所が理解できた。(2 人)
- ・計算の速度が上がった。(2 人)
- ・理解ができ自信がついた。(2 人)
- ・計算が面白かった。(1 人)
- ・復習ができたため自信がついた。(1 人)
- ・計算ミスが減った。(1 人)
- ・計算力がついた。(1 人)
- ・応用ができるようになった。(1 人)

<質問 4>



- ・自分のペース (段階別) で進められる。(7 人)
- ・先生に聞けるため良かった。(2 人)
- ・進めていくと段階が上がり力がついた。(1 人)
- ・テストの復習もやりたかった。(1 人)
- ・家でも復習できると良かった。(1 人)
- ・目標が明確である。(1 人)

<学生の感想>

・わかりやすかった。／この授業を通して苦手部分がはっきり解りました。同じテストを 2 回実施したにもかかわらず、全然出来ていなかったのにショックと情けない気持ちになりました。全体的には特別授業を受けさせて頂き、自分の為になり良かったと感謝しております。／問題が解らないけれども…、先生へ質問するのも気後れされているのかなっ？と

感じる生徒さんへは、先生自ら歩み寄られ1問ずつチェックし、時には解き方を個別ご指導されてる姿を拝見し流石だと、嬉しく感じました。講師陣の、一人も置き去りにしないという姿に毎回、感動と感謝の思いです。ご多用な中で貴重なお時間を大変恐縮でした。／小学生レベルから再度学べ、廃棄率や栄養価計算までメニュープランニングと同時進行で学べる機会を設けてくださり感謝しています。今後も基本を大切に勉強を続けたいと思います。ありがとうございました。／教えてくれる先生を出来たら増やして欲しい。他の人を教えて聞くに行けないことがあるから。／お忙しい中、教えていただきありがとうございました。



<昨年度までの比較>

前年度行っていた「基礎学力演習」は、15回授業を国語、数学、化学に分けて実施していた。そのため、極端に数学だけ苦手な学生が十分な理解ができないまま他の分野の授業を受けることがあった。そして、基礎学力試験を合格した意欲がある学生も受講できたため、本当に補講が必要な学生に対し手を掛けられないことを見受けられた。今年度は、アンケートの結果から見られるように、自身のペースで進められることや対応する教師の増員により様々なレベルの学生に対応することができた。また、内容を数学の授業に絞ったため、授業が15回できることでメニュープランニング演習とも同時に進行され、自身の苦手分野が露呈することでより理解が深まったと考えられる。

赤星 文月 (2年担任・カリキュラム委員)

4 成果と課題

栄養士として必要とされる基礎学力の不十分さについて、平成26年度よりカリキュラム上に「基礎学力演習」として設定されたがそれ以前からの課

題としている懸念事項だった。カリキュラムになる前から、担任が率先して、放課後や昼休みを利用して栄養士に関わる数的処理の理解度や確認、補講を実施してきた。これは、献立作成はもとより発注業務や実務の中で必要とされる基礎学力に課題のある学生が年々増加し、通常授業が滞るような事象が見受けられ、授業運営や卒業後の業務にも支障が出てくることへも配慮が必要不可欠と考えられたためであった。

昨年度までの基礎学力演習について、カリキュラム検討部会の一員として、話し合いを重ねた。昨年度までは、数学(小学算数)・国語・化学を実施していたが、一年前期に開講し、受講したはずの数的処理について、二年次の授業関係職員によると、事実上の定着が見られない状況が近年の課題となっていた。そこで、カリキュラム検討委員として、基礎学力演習のシラバスに設定している科目の見直しと学習内容の改定が必要という意見で、教職員全体に提案した。

提案後、校長先生をはじめとする先生方もご理解いただき、今年度からのシラバス内容を計算実務(小学算数レベル)を主体とする数的処理に絞りを、実施していくこととなった。その後、授業内容ならびに実施要項等は校長先生を中心に、学生の現状などを踏まえながら教材を作成した。

実施にあたり、学生からの声や様子を目の当たりにした。本人たちも小学校で習得すべき数的処理がわからないまま今まで過ごしていたことに気づき、当初不安を抱く学生も見受けられた。今回の基礎学力演習を受講することによって、不安が解消し、学びなおしの機会を与えてもらったことへの感謝の意を示すような声も聞こえてきた。しかし、指導をする側の準備が不足している可能性も浮き彫りとなっ



た。本校の教職員において数的処理に特化した科目は少なく、小学算数の基礎指導に戸惑う姿もあった。次年度に向けて、学生の理解を深める為には様々な学習能力の学生に対して対応できるよう教職員の定期的な共通理解と指導方法の確立が必要と感じた。これは必ずしも同じ指導で全員が理解できるとは限らないことを視野に入れ、教え方についても検討していく必要があると感じた。

また今年度のシラバスから小学算数のみの内容を実施してきたが、全15回中11回目に栄養士業務に直結する数的処理の内容に入るが、加減乗除の問題数が多いためか、初歩的な問題に躓く学生も少なくなく、中々本来必要な単元に進めず、授業回数内に実施が難しいことも課題として挙げられた。学生一人一人にとって、今までの取り組みに比べると格段に数的処理についての理解は深まったものと想定されるが、経過観察を続け、今後も成果と課題を考察していく必要があると考える。

高野 沙織 (1学年担任・カリキュラム委員)

5 まとめ (担当した教員の感想)

①計算が不得手な学生のみを選出し、授業課題も個人の進捗状況に対応できるものであった為対象学生は前向きに取り組んでいた。課題としては、理解のスピードが遅い学生への対応である。人員と時間の確保が求められる。 **竹田 恵子 (1年学年主任)**

②授業成果は、予想以上のもので、何となく今まで来てしまった学生にはとても効果のある方法であると思う。一方、この方法でもなんともできない学生がいることも事実であり、今後の栄養士取得においてはかなり厳しいと思われる。

佐藤 功 (1学年担任)

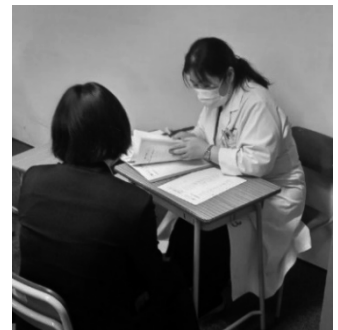
③年齢差や学力差が大きく、不安を感じる授業だった。回数を重ねるごとに授業で「思い出させる」ことの必要性を痛感した。今後は、一斉授業と個別指導の場を組み合わせ、理解力を向上させることが課題であると感じた。 **宮澤 良光 (進路開発課主任)**

④学生の主体的な学習を誘導するためには学生自身が一度躓いた原点に戻り自身で成功体験を築き上げ

るシラバスが重要だと感じた。教師の「補助」は学習を助成するのみでなく自身へのフィードバックが付随して与えられた。 **図子 奈央 (1学年担任)**

⑤初等教育の理解不足等、個々の課題を把握できた。1枚ずつの課題達成により学習意欲を刺激し、諦めずに取り組めていたと感じる。個別対応の時間配分や、栄養士分野の的を絞った課題作成など次年度に活かしていきたい。 **小金澤 真代 (1学年担任)**

⑥自分のクラスは、13名受講していたが個人の能力・性格・勉学の姿勢によって最初から差が出ていた。授業回数を重ねていくと一人一人の受講態度が変わり、



教室でもショートホームルーム時や放課後に個人的に教えて欲しいと言う学生が5人おり、それに刺激を受け、残りの受講している学生達も参加してくるようになったので、その授業に参加している学生の仲間意識が高まったのを感じた。最初は、やる気が見えなかった学生も計算ができ、理解ができると自然に表情が明るくなっていき、コミュニケーション力も高まっていった。改めて教える側の難しさを感じたが、学生の学びの力は身につけていくのを実感した。 **酒井 亜希子 (1学年担任)**

⑦私自身も学生の理解度について知ることができ、とても勉強になった。学生からも「やり方が分かったらスラスラ解けて楽しかった」「今まで曖昧だった点が、一対一で教えてもらえて理解できたのですっきりした」という声が聞こえてきた。一緒に進めていくことで、解けた時の喜びを共有できる点も学生のやる気に繋がっていると感じた。分からない箇所を曖昧にせず理解できるまで解き切ることで学生の自信に繋がり、とても有意義だと感じた。課題としては、圧倒的に進度の遅い学生をどこまでフォローしていくかの線引きが難しいと感じた。

秋山 知佳 (実習実験課)

⑧ 履修が必要な学生は、解き方があいまいであったり、何を問われているのかわからなかったりと個人差が非常に大きい印象で、一人一人に対して的確な指導をする必要があった。指導についても、それぞれにあった言い方など理解できるように努めたが、うまく伝わらない部分があったので、理解しやすい資料を事前に準備していく必要があった。多くの学生は、分からないことを積極的に質問し、集中して問題に取り組む姿勢は印象的であった。しかし、消極的な学生については、質問に来ることができないことがあり、その学生に対する支援方法は、検討が必要である。



⑨ 栄養士の業務内容に「栄養価の計算」「食料量の購入」などがあり、計算事務が必要な場面は多々出現する。最近では栄養価の計算は専用のソフトがあり、パソコンで対応していると聞く。便利になっていく半面、基本的な考え方、単純計算は避けては通れない必須の資質となっている。今回、新たな試みで「ベーシック方式」を取り組み、ある程度の成果も出ていることから、次年度も継続して実施する予定である。携わった教員からも「学生の取り組みが良かった」「学生がどこで躓いているかわかった」「今まで担当になった者が教材を作っており、その手間が省けた」などの声が聞こえた。また学生からも「こんなに集中できたのが嬉しかった」「小学校の算数を思い出せた」「出来ると楽しい」という言葉が漏れ聞こえてきた。今後も教員からの意見、学生からの意見も取り入れ、方法などより学生の資質向上につながる内容を検討していきたい。さらなる研鑽を積む所存である。

須藤 剛士 (2 学年担任)

最後に教材の資料を提供して頂いた都立秋留台高校に多大な感謝の意を表し、論文のまとめとする。

久保 淳 (校長)

10 教材の紹介

< 栄養ベーシック 問題用紙 >

栄養ベーシック		1 整数のたし算	NO.1
		氏名	
* 次の計算をしなさい。			
(1) $2 + 3 =$	(11) $27 + 16 =$		
(2) $6 + 7 =$	(12) $36 + 45 =$		
(3) $12 + 13 =$	(13) $24 + 38 =$		
(4) $25 + 35 =$	(14) $72 + 93 =$		
(5) $31 + 23 =$	(15) $63 + 75 =$		
(6) $27 + 16 =$	(16) $51 + 84 =$		
(7) $18 + 54 =$	(17) $68 + 57 =$		
(8) $84 + 42 =$	(18) $72 + 34 =$		
(9) $63 + 75 =$	(19) $88 + 99 =$		
(10) $51 + 84 =$	(20) $79 + 97 =$		

栄養ベーシック		9 百分率 割合	NO.5
		氏名	
* □に当てはまる数を求めなさい			
(1) □kgの4倍は60kgです。	(6) □円の110%は330円です。		
(2) □kgの1.2倍は60kgです。	(7) □円の90%は54円です。		
(3) □kgの70%は28kgです。	(8) □Lの50%は3Lです。		
(4) □人の0.4倍は8人です。	(9) □Lの80%は16Lです。		
(5) □人の60%は24人です。	(10) □Lの60%は4.2Lです。		

<割合、解き方の説明資料>

割合の問題を解く2つの方法 基礎学力講座 資料1 20210720

<解答方法1>割合の公式に基づく方法

比べる数÷もとの数×100 = %(割合)

比べる数 **ク** $ク = モ \times \frac{ワ}{100}$
 もとの数 **モ** **ワ** 割合
 $モ = ク \div \frac{ワ}{100}$ $ワ = ク \div モ \times 100$

①200グラムの水に10グラムの食塩が入っています。何%の食塩水になりますか？
 *①の問題は**%(割合)**がわからないので、
 $\frac{10(\text{グラム})}{200(\text{グラム})} \times 100 = \square$ (%) $ワ = ク \div モ \times 100$
 $\frac{5}{1} \frac{1000}{200} = 5$ (%) $10 \div 200 \times 100 = 5$

②200グラムの水が5%の食塩水になっています。食塩は何グラム入っていますか？
 *②の問題は比べる数がわからないので
 $\frac{\square(\text{グラム})}{200(\text{グラム})} \times 100 = 5$ (%) $ク = モ \times \frac{ワ}{100}$
 $\frac{2}{1} \frac{200}{100} \times 5$ $200 \times 5 \div 100 = 10$
 $\square = 10$ グラム

③食塩が10グラム入って5%の食塩水になっています。この食塩水は全部で何グラムですか？
 *③の問題はもとの数がわからないので
 $\frac{10(\text{グラム})}{\square(\text{グラム})} \times 100 = 5$ (%) $モ = ク \div \frac{ワ}{100}$
 $\frac{2}{1} \frac{100}{5} \times 100$ $10 \div 5 \times 100 = 200$
 $\square = 200$ グラム

<解答方法2>比例式の公式に基づく方法

$\bigcirc : \triangle = 100 : \square$

比べる数 もとの数100% 比べる数の%
 もとの数 $\bigcirc : \triangle = 100 : \square$
 内項 外項 **内項 = 外項**

①200グラムの水に10グラムの食塩が入っています。何%の食塩水になりますか？
 *①の問題は**%(割合)**がわからないので、割合をXと置く。
 $200 : 10 = 100 : X$
 $200X = 10 \times 100$
 $X = \frac{10 \times 100}{200} = 5$ %

②200グラムの水が5%の食塩水になっています。食塩は何グラム入っていますか？
 *②の問題は**比べる数**がわからないので、比べる数をXと置く。
 $200 : X = 100 : 5$
 $100X = 200 \times 5$
 $X = \frac{200 \times 5}{100} = 10$ グラム

③食塩が10グラム入って5%の食塩水になっています。この食塩水は全部で何グラムですか？
 *③の問題は**もとの数**がわからないので、もとの数をXと置く。
 $X : 10 = 100 : 5$
 $5X = 10 \times 100$
 $X = \frac{1000}{5} = 200$ グラム

基礎学力講座 学習記録表						組 氏名						
	1たし算	2ひき算	3かけ算	4割り算	5小数	6分数		7正負	8単位	9百分率	10四捨五入	11総合問題
NO, 1						1	6					
NO, 2						2	7					
NO, 3						3	8					
NO, 4						4	9					
NO, 5						5		-----	-----			
*1枚合格するごとに担当者の印をもらうこと。												
*合格した期日を記入してもらうこと。												